

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	かぶと虫Mark		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～ 2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	イベントが豊富な為、様々な体験や経験を積み重ねることが出来る。買い物体験や地域交流などを行うことで社会のルールを学ぶことが出来ている。	一か月ごとに内容が被らないように会議をして工夫している。体験系、調理系、制作系、外出系などに分野を区切っているため、様々な経験が出来るようにしている。	地域や保護者の方との交流を更に図ることが出来るように、大きいイベントを企画していく。 楽しく体験が行うことが出来るように、利用者からの声も聞きつつ、イベントを企画していく。
2	集団での生活を意識している為、自然と縦の関係やコミュニケーション能力が培うことが出来ている。	はじめの会や終わりの会という集団で集まる時間を必ず確保している。 また、調理体験や少人数の療育を取り入れることで、高学年の利用者が低学年の利用者に教える体験を培う事ができるようにしている。	明確なルールを定めることで、利用者が分かりやすく他の利用者に教えることが出来るようにしていきたい。 集団感応がしっかりできるような体制を整えていく。
3	一人一人にしっかり真向に向き合っ対応している事。個別のニーズに合わせての活動に取り組むことが出来たり、個々でのお話をしっかり聞くこと。	個別での指導の中で、利用者が解決できたと感じるところまで行うことを意識して取り組んでいる。 個々のやりたいことを大切にしながらも、今現在の課題等を伝えつつ、出来ることから取り組めるように支援をしている。	個別のクールダウンの対策方法を見つけて共有し、指導員全員がすべての利用者の対応に入れるように取り組んでいる。 基礎を忘れないような工夫を今後検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ルールの明確化が出来ていないところがあるため、指導員が別な対応をしてしまう時があること。	大まかなルールは定められているが、細かなルールまでは把握できておらず、違う対応を取って利用者を戸惑わせてしまう事がある。 個別のニーズにどこまで寄り添うべきなのかなど、様々な境界線がはっきりしていない事。	具体的なルールを定め研修などを用いて、共通認識が出来るように工夫していく。 判断基準を各々の物差しで図るのではなく、基準を定めたいうでの確かな判断が出来るようにしていく。
2	学校の数が多く送迎をまとめて行くことが難しいところ。送迎に行く時間が長く療育時間が短い利用者がある。	週に一度の利用者が複数名いることで学校数が増えてしまっている。 近隣の市からの利用者が多く、一度の送迎に時間がかかってしまう事。	近隣の学校に関しては自主送迎を行ってもらったり、送迎が難しいところについても自主で来てもらうように協力をお願いしているが、市外の送迎についても少しづつ協力をお願いしていく。
3	障がいのない子どもとの交流を図る機会が少ないこと。	児童館や図書館などの公共施設などを利用しているが、規則が各々である為、月に何度も行くことは難しい。	イベントを企画する中で、公共施設を利用する機会を増やし、上手く土曜日や長期休暇期間を利用していく。